

『動く人』の地域研究：自然と農業

阿部健一（元・総合地球環境学研究所教授）

これまでの研究人生を一言で振り返ると「節操がない」ということか。専門分野も対象地域もそのつど違い、しかも脈絡がない。ブラウン運動のようだ。無理して筋をつければ、前半は生物学から熱帯林研究・地域研究、後半は「人と自然の関係性の研究」、で環境人間学と称している。

そのあげく今日、何を考え、今後何をするつもりなのか、研究者としての出発点であったこの研究会で話したい。思いつくままキーワードを挙げておけば、「東ティモール」「世界農業遺産」「かかわりのエトス」「ニホンカワウソ」「環境日本学」。「動く人（Homo viator）の地域研究」は、この一見ばらばらのものをつなげることだ。